2022年度　学校関係者評価委員会　開催記録

開催日時　2022年6月13日（月）14：00～16：00

開催場所　専門学校 文化デザイナー学院 6階プレゼンテーションルーム

委員数　　9名

出席委員　8名

茨城県中小企業団体中央会　事務局長兼総務企画課長　近藤　哲生

株式会社光和印刷　制作部　部長　岡田　寛和

アセビデザイン　竹越　萌野（卒業生）

水戸ステーション開発株式会社　取締役総務部長　丸山　久

株式会社ジェイディーアールスミヤ　代表取締役　住谷　強生

有限会社メイクス　代表取締役　髙松　啓士（卒業生）

茨城インテリアコーディネーター協会　補佐　棚井　政江

株式会社根本建築設計事務所　阿久津　裕司（卒業生）

評価表のみ提出　1名

株式会社関根工務店　代表取締役　関根　貴雄

学校職員出席　3名

学校法人リリー文化学園　本部長　渡邉　忠

専門学校文化デザイナー学院　学校長　荒井　真次

専門学校文化デザイナー学院　教務部長　川上大輔

委員会次第

■校長挨拶

■2021 年度修了制作展プレゼンテーション&作品画像

・企業・団体等　連携課題実施計画書

■報告事項

・2021 年度活動報告資料

①委員名簿

②学校運営

③教育活動

④学修成果

⑤学生の受入れ募集

⑥社会貢献・地域貢献

・職業実践教育課程の基本情報について「様式 4」

（各委員会意見の活用状況・連携課題実施報告書）

・各員会　開催記録の報告について

・「2021 年 6 月 14 日　学校関係者評価委員会」

・「2021 年 7 月 12 日　教育課程編成委員会」

・「2022 年 2 月 5 日・12 日　教育課程編成委員会」

■学校評価（2020 年度）の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

■授業見学

■2021 年度自己点検・自己評価報告書

■協議事項

・評価項目に関する評価

①教育理念・目標

②学校運営

③教育活動

④学修成果

⑤学生支援

⑥教育環境

⑦学生の受入れ募集

⑧財務

⑨法令等の遵守

⑩社会貢献・地域貢献

⑪国際交流

■本部長挨拶

（委員会の開催）

荒井校長より挨拶。

■報告事項

2021 年度修了制作展、2021 年度の活動報告、職業実践専門課程の基本情報「様式 4」について、前回委員会の開催記録・活用状況、前回の学校評価結果等を川上教務部長より報告。

■授業見学

各学科の授業に入り、授業内容を見学。

■協議事項
昨年度の自己点検・自己評価、今後の改善方策等について川上教務部長より説明。各委員が学校の自己点検・自己評価が正当なものかどうかを評価項目ごとに評価した。

評価基準１　教育理念・目的

〇評価表より委員意見

（近藤委員）時代の変化に即した授業が行われている。

（岡田委員）理論立てて説明できるよう講師の勉強会や入れ替えを積極的に行っている。常に見直しを図る姿勢が学生募集増に繋がっていると感じた。

（髙松委員）新しいことに対しての取り組みが良い。

（棚井委員）講師の人選も含め細やかな授業ができる様にカリキュラムを組んでいるところが評価できる。

（関根委員）環境の変化への迅速な対応が今後のポイントになると思う。

評価基準２　学校運営

〇評価表より委員意見

（髙松委員）データ管理、スケジュール管理をシステムの運用することで時短に繋がっていると感じた。

（棚井委員）職員の出退勤や代休取得など計画通りに進めている事は非常に評価できる。

（関根委員）コンプライアンスの徹底は一人ひとりの責任感が必要となるので、全員が気を使ってほしい。

（阿久津委員）働きやすい環境が良い教育を提供できると思う。管理システムが整ったことは良い事だと感じた。

評価基準３　教育活動

〇評価表より委員意見

（近藤委員）業界の連携・協力体制をさらに強化するとよい。

（岡田委員）映像・アニメーションやSNS等の広告宣伝、販売方法など時代に合わせた教育内容・学科編成を常に考えている。満足度アンケートの不満に対する具体的な回答がないところがいくつか見られた。アンケートが改善に繋がっていることを学生に伝えることで多くの意見を集められるのではないか。

（竹越委員）映像・アニメーション、動画編集の考え方、技術はＷＥＢでも広告でも広く必要とされている。学生のうちから学んでおけるのは非常に役に立つと思う。

（髙松委員）授業アンケートは講師のモチベーションにも繋がると思う。

（棚井委員）将来を見据えた専門知識と技術の基礎を身に付けるため、段階を踏んだ適切なプログラムが組まれている。

（関根委員）伝えるではなく伝わるが出来る教員が多くなれば多くなるほど充実すると思う。

（阿久津委員）外部実習をより多くできると就職後では体験できないことを学べるので良い。

評価基準４　修学成果

〇評価表より委員意見

（岡田委員）見学先の企業が増えているように感じた。実際に行って自分の目で見て聞くことは非常に価値がある。今後もっと増やしてほしい。

（竹越委員）コロナ禍において会社見学やインターンも例年以上に厳しいことも多いと思うが、就職率が高いのは学校と学生の努力を感じる。

（髙松委員）コロナ禍で精神的に弱っている学生のサポートが素晴らしい。学生の価値観や才能、情熱、やりたいことを伸ばしている。

（棚井委員）学校側は学生の意識向上のためにあらゆる努力をしているが、資格取得に対して学生側の意識向上が課題。もっと意識が高くなることを期待したい。

（関根委員）社会人とは、という基本的な事をもっと指導してほしい。

（阿久津委員）デザイン力はこれからも必要とされるスキルであるため、就職活動でも生かされていると思う。

評価基準５　学生支援

〇評価表より委員意見

（近藤委員）就職率は良いが定着率はどうか

（竹越委員）オンラインで授業に参加できる対応は素晴らしい。細かいサポートは大変かと思うが、学生には心強いと思う。

（髙松委員）コロナ対策も万全を期しておりオンライン授業なども充実している。

（棚井委員）全ての学生を学校側で把握することは難しいが、ボランティア等の地域活動は希望者だけではなく、他に対策が取れれば退学者も減らせるのではないか。

評価基準６　教育環境

〇評価表より委員意見

（岡田委員）地下ショップで学生が制作したものを販売できることは満足度向上に繋がると思う。運営は大変だと思うが、色々な実験も行ってほしい。

（竹越委員）大型モニターの導入は映像の授業もあるので見やすくて良いと思う。

（髙松委員）施設設備の改善、防災に関しても整備を進めている。

（棚井委員）防災面の整備も長期計画的に整備を実施していくことは評価できる。

（関根委員）防災も天気や地震など察知できないこともあると思うので十分に整備してほしい。

評価基準７　学生の受け入れ募集

〇評価表より委員意見

（棚井委員）誇張せず本来の姿をダイレクトに伝える広報を目指している姿勢は評価できる。

評価基準８　財務

〇評価表より委員意見

（近藤委員）リカレント教育は有意義である。これまで以上に周知すると良い。

（棚井委員）地域に根付いた信頼できる学校として、これからも発展するために入学生の確保に向けて努力している。

評価基準９　法令等の遵守

〇評価表より委員意見

（近藤委員）弁護士や弁理士による授業があってもよいのではないか。

（岡田委員）インターネット購入画像の無断使用などがニュースになることがあった。悪意がなくても事故事件に巻き込まれることがあるので、企業も学生も勉強が必要だと強く感じる。

（髙松委員）情報が錯綜している世の中なので著作権は難しい。勉強は必要。

（関根委員）学生には難しいかもしれないが、著作権については十分に教えてほしい。

評価基準 10　社会貢献・地域貢献

〇評価表より委員意見

（近藤委員）さらに自治体や業界団体等との連携を強化してほしい。

（竹越委員）学校の外から評価を受ける事は学生のモチベーションにも繋がり思わぬ発見もある。地域のコンペやイベントの参加は学びが多いので、これからも沢山参加してほしい。

（棚井委員）修了制作として地域と連携しての制作発表はとても良い取り組みなので続けてほしい。

（関根委員）社会貢献、地域貢献が出来ていると思うので、今後も継続してほしい。

（阿久津委員）県や市町村からの依頼が多くなり、この実績が学生受入れの際に保護者へのアピールになると思う。

各評価項目の評価終了。

渡邉本部長より閉会挨拶。

委員会終了。

なお、本日の審議事項については所要の手続きを経て教務会議にて報告する。

上記の通り確認する。
2021 年 6 月 30 日

学校法人　リリー文化学園
専門学校　文化デザイナー学院
校長　荒井　真次

2022 年度 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 1　教育理念・目的	◆随時対応 対象：全学科全学年 授業：
①（近藤委員）**時代の変化に即した授業が行われている。** ②（岡田委員）理論立てて説明できるよう講師の勉強会や入れ替えを積極的に行っている。**常に見直しを図る姿勢が学生募集増に繋がっている**と感じた。 ③（髙松委員）**新しいことに対しての取り組みが良い。** ④（棚井委員）講師の人選も含め細やかな授業ができる様にカリキュラムを組んでいるところが評価できる。 ⑤（関根委員）環境の変化への迅速な対応が今後のポイントになると思う。	コロナ以降社会に大きな変化が起こっていることは間違いない。それに伴って**これから各業界で求められる技術や人材像も変わるので動向を調査・分析し、教育内容に反映させなければ淘汰されてしまう時代になっていると危機感を抱いている。**本学の「いつもあたたかく いつもあたらしく」という理念を忘れず、常に課題点を意識し変化を恐れずチャレンジしていかなくてはならない。2021 年度の事業目標としてチャレンジを掲げ、学校としてもそれぞれの職員もチャレンジに取り組んだ。そのような取り組みが学生募集にもつながったのではないかと思う。次年度も各分野で AI、VR、アバターなど注目すべきキーワードがあり情報収集に努めていきたい。そして、2022 年度は教育方針である**「文化デザインマインド」がどれだけ浸透したかをまとめる年度として位置付けている。そのまとめた内容を講師会で伝達しその結果によって今後の方針を打ち出していきたい。**

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準２　学校運営	◆引き続き対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：
⑥（髙松委員）データ管理、スケジュール管理をシステムの運用することで時短に繋がっていると感じた。 ⑦（棚井委員）**職員の出退勤や代休取得など計画通りに進めている事は非常に評価できる。** ⑧（関根委員）コンプライアンスの徹底は一人ひとりの責任感が必要となるので、全員が気を使ってほしい。 ⑨（阿久津委員）**働きやすい環境が良い教育を提供できると思う。**管理システムが整ったことは良い事だと感じた。	2020 年の働き方改革以降、労務環境をこれまでと大きく改革し 2021 年度も改善しながら継続することができた。**業務管理ツールについては、経験の浅い職員でも使えるように使い方の見直しをするなど改善を図った。**繁忙期などは業務が重なりさらなる工夫が求められる。また、代休の取得などでスタッフ全員が顔を合わせる時間も限られてくることから情報共有や意思疎通を図る部分ではさらに工夫が必要であると感じている。人材の確保の面からも働きやすい環境づくりに取り組むことは今後も重要であると考えている。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準３　教育活動	◆即対応 対象：学校運営・講師 授業：
⑩（近藤委員）**業界の連携・協力体制をさらに強化**するとよい。 ⑪（岡田委員）映像・アニメーションや SNS 等の広告宣伝、販売方法など**時代に合わせた教育内容・学科編成を常に考えている。**満足度アンケートの不満に対する具体的な回答がないところがいくつか見られた。**アンケートが改善に繋がっていることを学生に伝えることで多くの意見を集められるのではないか。** ⑫（竹越委員）映像・アニメーション、動画編集の考え方、技術はWEBでも広告でも広く必要とされている。学生のうちから学んでおけるのは非常に役に立つと思う。 ⑬（髙松委員）授業アンケートは講師のモチベーションにも繋がると思う。 ⑭（棚井委員）将来を見据えた専門知識と技術の基礎を身に付けるため、段階を踏んだ適切なプログラムが組まれている。 ⑮（関根委員）**伝えるではなく伝わるが出来る教員が多くなれば多くなるほど充実すると思う。** ⑯（阿久津委員）**外部実習をより多くできると就職後では体験できないことを学べるので良い。**	⑩⑯ 業界との連携として、2022 年度からはインテリア＆家具クラフト学科では年間を通してインターンシップの授業を新規で開設する。企業で実務に携わる経験を通して、**社会に出た時の職種の多さや面白い仕事がある事に気づき、将来の可能性を広げられることを願う。** ⑪⑬ **授業アンケートは学校運営を評価・改善するツールとして重要なものと認識している。**アンケートという性質上、匿名で実施しているため、個人に対するフィードバックは難しさもあるが、クラスまたは学校全体として問題がある点は半期ごとに集計するアンケートに対して対応をとっている。そして、**改善に取り組んだ内容についてはクラスへ連絡を行い、学生へフィードバックしている。**また、非常勤講師にとっても学生の声は授業の改善やさらに充実を目指す意味でもモチベーションに繋がっている。 ⑫⑭ カリキュラムの変更には講師の確保や時間割の変更など調整に時間がかかるので、コロナ禍で社会が様々な面で変化している中で、学生たちが学ぶべき内容に関する情報収集には気をつけていたい。 ⑮ 教務職員に求められる資質も事務処理力に限らず、**目的や意味が学生に伝わる教育力がますます求められていると感じる。**研修などを通して、人材育成を行っていくこともより重要だと考える。また、**問題を抱えて入学してくる学生が増えてきている。その状況が変わらない限り、学校の対応力をつける必要があり準備を進めている。**

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準4　修学成果	◆引き続き対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：就職活動に関わる授業
⑰（岡田委員）見学先の企業が増えているように感じた。実際に行って自分の目で見て聞くことは非常に価値がある。今後もっと増やしてほしい。 ⑱（竹越委員）コロナ禍において会社見学やインターンも例年以上に厳しいことも多いと思うが、**就職率が高いのは学校と学生の努力を感じる。** ⑲（髙松委員）**コロナ禍で精神的に弱っている学生のサポートが素晴らしい。**学生の価値観や才能、情熱、やりたいことを伸ばしている。 ⑳（棚井委員）学校側は学生の意識向上のためにあらゆる努力をしているが、**資格取得に対して学生側の意識向上が課題。もっと意識が高くなることを期待したい。** ㉑（関根委員）**社会人とは、という基本的な事をもっと指導してほしい。** ㉒（阿久津委員）デザイン力はこれからも必要とされるスキルであるため、就職活動でも生かされていると思う。	⑰ 2 年次に実施している企業見学会では学生の希望に合わせて細分化して見学先を調整している。コロナ禍で対面での受け入れが企業によっては難しい場合もあるが**オンラインも使ってできる限り多くの企業の受け入れを今後も実現していきたい。** ⑱㉑㉒ コロナ禍で年間の求人数は若干減少傾向であるが、求人倍率は学生数の3倍以上となっている。デザインが世の中から求められていることを感じるが、アパレル系、グラフィックデザイン事務所系など一部の業種では厳しさも感じている。学校側の企業開拓ももちろん必要だが、学生が自らアプローチしてインターンシップなどを通して採用に繋がることもあるため、**どのような状況でもしっかりと目標を持たせて就職活動ができるよう学生指導をしていきたい。**また、学生達のモチベーションを上げる取り組みを計画している。**学生達のやりたい事を明確にして、社会人になった時に最も大切である、どんな仕事をやってみたいかという気持ちを持たせる試みを行っていく。** ⑲ 入学者の増加に伴ってさまざまなバックグラウンドを持つ学生も増えてくると予想される。精神的な病気やいじめ、不登校の経験などがあるが、そのような学生の対応にはどうしても時間を要することが多く、しっかりとした対応が求められる。また、限られた時間の中で退学を防止する対応力も必要なため**教務職員に対する研修会を実施した。今後も状況を見て引き続き検討していきたい。**また、対応する教務職員にも負担が大きいため、教務部全体として対応をとっていきたい。 ⑳ 資格取得に関しては、各クラスで受験対策講座を設け合格を目指していく。授業内での講義はもちろん、キャリアデザインの授業や放課後を使い過去問題に取り組むなど教務部も協力できる体制をとっている。合格につながるカリキュラムをしっかり構築することはもちろんだが、学生のモチベーションを上げることも重要な要素である。資格取得の目的は色々あるが、**自信を持つことや就職活動に活かすなど学生に合わせて考えていかなくてはならない。**また、クラスの雰囲気作りも大切であり、一生

	懸命取り組む学生のモチベーションをクラス全体に波及していきたい。過去の経験でもクラス全体で合格を目指し学生同士が教え合う姿の見られるクラスは全体的に合格率も上がってくる。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準５　学生支援	◆継続的に対応 対象：学校運営全学科全学年 授業：
㉓（近藤委員）**就職率は良いが定着率はどうか** ㉔（竹越委員）オンラインで授業に参加できる対応は素晴らしい。**細かいサポートは大変かと思うが、学生には心強いと思う。** ㉕（髙松委員）コロナ対策も万全を期しておりオンライン授業なども充実している。 ㉖（棚井委員）全ての学生を学校側で把握することは難しいが、**ボランティア等の地域活動は希望者だけではなく、他に対策が取れれば退学者も減らせるのではないか。**	㉓ 卒業生が就職した企業に対しては訪問を行い、職種内容や学生と企業のマッチングの確認を行っている。そして、教務職員も今後の就職指導にいかしている。**残念ながら早期離職をしてしまう卒業生もいるが、理由としては職場の人間関係が大きいのではないかと思う。**社会人としての心構えはしっかりと指導を行っているが、それでも思い描いていたイメージとのギャップを埋められないケースがあるのではないか。**就職指導の段階から目先の内定獲得に囚われすぎずにしっかりと学生自身も適性に合った企業を選択できるよう指導していくことも必要である。そして、教務職員も長い将来を見据えたキャリア指導を行う必要がある。**また、悩んでいる卒業生も気軽に学校に相談に来ることができるような学校づくりを心がけていきたい。 ㉔㉕ コロナ感染対策も日々状況が変わっており、そのときの状況に合わせて学生の学修機会の確保に努めている。本校の傾向として家族感染によって濃厚接触者に該当し自宅待機となる事例が増えてきたため、授業を自宅でオンライン視聴できるよう対応をするなど適宜迅速に対応がとれたことは良かった。状況に合わせた柔軟な対応をとっていきたい。 ㉖ **学校では様々なコンペに参加できる機会を設けている。**学校の授業の中で行う課題だけではなく、企業や行政の方に来校頂き、説明会のような場面を設けて、**学生に向けてレクチャーを行って貰うなど学生がチャレンジできる機会を作り、モチベーションを上げる事に努めている。**

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準６　教育環境	◆継続的に対応 対象：学校 授業：
㉗（岡田委員）地下ショップで学生が制作したものを販売できることは満足度向上に繋がると思う。**運営は大変だと思うが、色々な実験も行ってほしい。** ㉘（竹越委員）**大型モニターの導入は映像の授業もあるので見やすくて良いと思う。** ㉙（髙松委員）施設設備の改善、防災に関しても整備を進めている。 ㉚（棚井委員）**防災面の整備も長期計画的に整備を実施していくことは評価できる。** ㉛（関根委員）防災も天気や地震など察知できないこともあると思うので十分に整備してほしい。	㉗ 現在はリメイクの販売が中心だが、**コーディネートを学生が考え SNS で PR して販売**につなげることや**地域のクリエイターの作品を募集する**など様々な発展が考えられる。2021 年度は店舗立ち上げの年だったが、次年度はさらに特色ある場所となるよう運営を行っていきたい。 ㉘㉙㉚㉛ **学習内容や学生数の変動に伴い施設環境も整備をしていかなければならない。**大型モニターはこれまでプロジェクターが設備の中心だったが、視認性や教室の照度を保てる点からも学習効率が上がるのではないかと考えている。また、**防災対策に関しても 2F・3F が整備できた。上層階も引き続き計画に従い推進していく予定である。**さらには、**学生作品を展示するスペースも新しく什器をそれぞれの作品に合わせて配置し、学生がいつでも見られるような環境を作ったのと同時に、高校生らが見学を行いやすい環境も整えた。**

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 7　学生の受け入れ募集	◆継続的に対応 対象：学校 授業：
㉜（棚井委員）誇張せず本来の姿をダイレクトに伝える広報を目指している姿勢は評価できる。	㉜ コロナ禍では高校生の進路決定の流れも変わってきている。これまでは複数校のオープンキャンパスに参加して進路を検討していたが、今は1、2校と言われている。その候補に入ることができなければ志望校になることができない。**高校生にはたくさんの情報が集まるので、学校案内やホームページの印象でダイレクトに本校の特色やイメージを伝えることはとても重要であり、重要な広報媒体として制作に取り組んでいる。その成果もあり 2022 年度の入学生はここ数年では一番多い学生を迎え入れた。**また、2022 年度は Instagram やジオターゲティング広告などの SNS を中心とした新しい広報にも取り組んでいる。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準８　財務	◆継続的に対応 対象：全学科全学年 授業：
㉝（近藤委員）リカレント教育は有意義である。これまで以上に周知すると良い。 ㉞（棚井委員）地域に根付いた信頼できる学校として、これからも発展するために入学生の確保に向けて努力している。	㉝㉞ 2021 年度もファイナンシャルミーティングが定期的に実施され、予実管理を行っている。感染症対策のための衛生費の増加や海外の情勢による物価の高騰など支出の増加に対しても注視していかなくてはならない。学校単体で見ると、かなり健全な財務状況を保っている。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 9　法令等の遵守	◆継続的に対応 対象：全学科全学年 授業：
㉟（近藤委員）弁護士や弁理士による授業があってもよいのではないか。 ㊱（岡田委員）インターネット購入画像の無断使用などがニュースになることがあった。悪意がなくても事故事件に巻き込まれることがあるので、**企業も学生も勉強が必要だと強く感じる。** ㊲（髙松委員）情**報が錯綜している世の中なので著作権は難しい。勉強は必要**。 ㊳（関根委員）学生には難しいかもしれないが、著作権については十分に教えてほしい。	㉟㊱㊲㊳　教育の範囲の著作権の取り扱いとビジネスにおいては違いも多く、学生時代の感覚で実務に携わってしまうとクライアントや自社が大きな損害を被ることにも繋がる。著作物の取り扱いについては、各授業で触れる部分もあるが、学習の機会が必要であることを改めて認識していかなくてはならない。教育の情報化に対応した平成 30 年著作権法改正の理解も図っていきたい。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 10　社会貢献・地域貢献	◆継続的に対応 対象：学校 授業：
㊴（近藤委員）さらに自治体や業界団体等との連携を強化してほしい。 ㊵（竹越委員）学校の外から評価を受ける事は学生のモチベーションにも繋がり思わぬ発見もある。地域のコンペやイベントの参加は学びが多いので、これからも沢山参加してほしい。 ㊶（棚井委員）修了制作として地域と連携しての制作発表はとても良い取り組みなので続けてほしい。 ㊷（関根委員）社会貢献、地域貢献が出来ていると思うので、今後も継続してほしい。 ㊸（阿久津委員）**県や市町村からの依頼が多くなり、この実績が学生受入れの際に保護者へのアピールになると思う。**	**SDGs や地域の持続について学ぶ機会が増えたことで関心を持つ高校生も増えて来ていると感じる。その様な中で授業の取り組みの一つとして建設現場などで残ったコンクリートでプランターをデザインしてみたり、地元アパレル企業との連携で、衣料ロスとして発生した商品を新しく生き返らせる試みで、ファッションリメイクを行ってみたりと環境問題には前向きに取り組んでいる。このような地域との連携は本校の大きな特徴に挙げられる。そして、地域に貢献する人材を育成する上でも欠かせない学習内容だと考えている。**また、これまでに多くの自治体と活動を行ってきたことが評価にもつながってきている。2022 年度には茨城県が主催するまちづくりに関する講演会の講師依頼をいただいている。そのような機会がまた次の連携にもつながることを期待したい。

評価基準１　教育理念・目的

Ⅰ教育理念
Ⅱ教育目標
Ⅲ教育方針
Ⅳ年度目標

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切	
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	学校の理念・目的・人材像・特色・将来構想などが学生保護者に周知されているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか。	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか。

今後の改善方策
⑤2021年度はコロナを受け目指すべき人材像に向かって新しい試みを実施した年度となった。ファッションビジネス学科ではSNSビジネスに関する講演会を開催し、業界の動向に合わせた知識を学ぶ機会とした。2022年度からはインターネットビジネスに関する新しい授業科目を編成した。広告プロモーションデザイン学科、インテリア＆家具クラフト学科、建築設計デザイン学科では、コロナで地方でも活躍の場が増えたことから、修了制作に関する課題制作の一環としてイベントで地域住民へのアンケート調査を実施した。地域に根ざした、地域に求められるデザイナーを目指す取り組みを継続していきたい。

委員特記事項

時代の変化に即した授業が行われている。（近藤委員）

理論立てて説明できるよう講師の勉強会や入れ替えを積極的に行っている。常に見直しを図る姿勢が

学生募集増に繋がっていると感じた。（岡田委員）

新しいことに対しての取り組みが良い。（髙松委員）

講師の人選も含め細やかな授業ができる様にカリキュラムを組んでいるところが評価できる。（棚井委員）

環境の変化への迅速な対応が今後のポイントになると思う。（関根委員）

評価基準２　学校運営

Ⅰ 学校運営の方針
Ⅱ 授業計画
Ⅲ 学校組織のありかた
Ⅳ 意志決定のプロセス
Ⅴ 業務の効率化

	評価項目	学校自己評価	委員評価
		4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切	
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
6	業界や地域社会に対するコンプライアンスが整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7	教育活動等に関する情報公開が適切にされている	④ 3 2 1	④ 3 2 1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られている	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
④人事、給与に関する規程等は整備されているか
⑦教育活動等に関する情報公開が適切にされている

今後の改善方策
③④2021年度も改定した就業規則・諸規定を運用し常勤職員、非常勤講師ともに労務が適正に管理された。常勤の教務職員についてもほぼ定刻退勤を実行でき、代休取得も計画通りに進んだ。
⑦コロナ禍では高校生の進路選択における情報収集としてブログやSNSなどの媒体も重要になると考えている。日ごろより学習内容や成果を発信することを心がけ、ブログ等の更新業務も小まめに行っていきたい。

委員特記事項

データ管理、スケジュール管理をシステムの運用することで時短に繋がっていると感じた。（髙松委員）

職員の出退勤や代休取得など計画通りに進めている事は非常に評価できる。（棚井委員）

コンプライアンスの徹底は一人ひとりの責任感が必要となるので、全員が気を使ってほしい。（関根委員）

働きやすい環境が良い教育を提供できると思う。管理システムが整ったことは良い事だと感じた。（阿久津委員）

評価基準３　教育活動

Ⅰ 学科編成における全学科を通しての共通な特徴
Ⅱ 各学科の概要
Ⅲ カリキュラム
Ⅳ 単位認定･成績評価の考え方
Ⅴ 資格取得･国家資格に向けた授業
Ⅵ 業界との協力体制
Ⅶ 企業･団体等連携授業
Ⅷ 業界からの授業成果に関する協力
Ⅸ 修了制作展　作品の展示
Ⅹ 実践的な職業教育（インターンシップ）

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切	
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携による、インターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
10	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
11	人材育成の目標を達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
15	修了制作展において課題の方向性は合っているか。また、プレゼンテーションは適切に行われているか。	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

⑬関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか

今後の改善方策

⑬2021年度の研修会では教育方針の浸透度を評価し、意欲的な学生が育っていることを教務・講師で共有した。また、次の課題を設定し次年度にはモチベーションを上げきれていない層の底上げに取り組むこととした。一人でも多くの学生が目的意識や将来設計を明確にすることで、退学・休学の低減にもつなげていきたい。

委員特記事項

業界の連携・協力体制をさらに強化するとよい。（近藤委員）

映像・アニメーションやSNS等の広告宣伝、販売方法など時代に合わせた教育内容・学科編成を常に

考えている。満足度アンケートの不満に対する具体的な回答がないところがいくつか見られた。

アンケートが改善に繋がっていることを学生に伝えることで多くの意見を集められるのではないか。（岡田委員）

映像・アニメーション、動画編集の考え方、技術はWEBでも広告でも広く必要とされている。

学生のうちから学んでおけるのは非常に役に立つと思う。（竹越委員）

授業アンケートは講師のモチベーションにも繋がると思う。（髙松委員）

将来を見据えた専門知識と技術の基礎を身に付けるため、段階を踏んだ適切なプログラムが組まれている。（棚井委員）

伝えるではなく伝わるが出来る教員が多くなれば多くなるほど充実すると思う。（関根委員）

外部実習をより多くできると就職後では体験できないことを学べるので良い。（阿久津委員）

評価基準４　修学成果

Ⅰ 就職指導の全体方針
Ⅱ 就職目標設定と27年度報告
Ⅲ 就職に対する本校の特徴
Ⅳ 就職指導体制

	評価項目	学校自己評価	委員評価
		4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切	
1	在校生は、面接時に必要な自己アピール力を整えているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
2	就職プログラム（企業訪問・求人票送付・模擬面接・卒業生を囲む会等）は適切にスケジュールされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
5	退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
6	卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題
②就職プログラム（企業訪問・求人票送付・模擬面接・卒業生を囲む会等）は適切にスケジュールされているか
⑤退学率の低減が図られているか
⑥卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか

今後の改善方策
②2021年度は就職指導のスケジュールを変更し、２年次秋には自分の就職活動の方向性を決定づける企業見学を推進している。修了制作と重なるため、就職活動の時間を確保したことで多くの学生が見学を実施することができた。2022年度も新しいスケジュールで指導を行っていきたい。
⑤精神的な理由に起因する退学が多くみられた。高校を通信制で学んでいる学生や精神面の弱さを抱えている学生は少なくない状況で、多様なバックグラウンドを持つ学生に対応することが求められている。2022年度は教務職員に研修を行う予定である。
⑥在校生の課外活動が評価された事例としてひたちなか海浜鉄道のラッピングデザインがあげられる。コンペなどの情報を学生に発信するとともに、評価を受けた場合にはその功績を周知していきたい。また、毎年開催している卒業生を囲む会では活躍している卒業生を招き、情報を収集すると共に在校生へ状況を伝えている。

委員特記事項

見学先の企業が増えているように感じた。実際に行って自分の目で見て聞くことは非常に価値がある。

今後もっと増やしてほしい。（岡田委員）

コロナ禍において会社見学やインターンも例年以上に厳しいことも多いと思うが、就職率が高いのは

学校と学生の努力を感じる。（竹越委員）

コロナ禍で精神的に弱っている学生のサポートが素晴らしい。学生の価値観や才能、情熱、

やりたいことを伸ばしている。（髙松委員）

学校側は学生の意識向上のためにあらゆる努力をしているが、資格取得に対して学生側の

意識向上が課題。もっと意識が高くなることを期待したい。（棚井委員）

社会人とは、という基本的な事をもっと指導してほしい。（関根委員）

デザイン力はこれからも必要とされるスキルであるため、就職活動でも生かされていると思う。（阿久津委員）

評価基準５　学生支援

Ⅰ 学生支援体制

	評価項目	学校自己評価	委員評価
		4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切	
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	学生相談に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	学生にたいする経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	学生の健康管理を行う体制は整備されているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
5	学生の生活支援に対する支援体制は行われているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
6	保護者と適切に連動しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7	卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1

課題
④学生の健康管理を行う体制は整備されているか

今後の改善方策
④新型コロナウィルス感染症のワクチン接種状況については、接種率を把握している。学校行事や課外実習など通常授業外の活動の際には参考としている。また、クラスの一部の学生が自宅待機要請を受け、授業に参加できない場合には、オンラインを使って授業を視聴できるようにするなど、学習遅れにつながらないように対応をしている。また、一部の検定試験では事情によっては再受験も可能であり、試験手配の負担は増えるが最大限学生のために対応している。

委員特記事項

就職率は良いが定着率はどうか。（近藤委員）

オンラインで授業に参加できる対応は素晴らしい。細かいサポートは大変かと思うが、学生には

心強いと思う。（竹越委員）

コロナ対策も万全を期しておりオンライン授業なども充実している。（髙松委員）

全ての学生を学校側で把握することは難しいが、ボランティア等の地域活動は希望者だけでは

なく、他に対策が取れれば退学者も減らせるのではないか。（棚井委員）

評価基準６　教育環境

Ⅰ 施設・設備状況
Ⅱ 防災・災害に対する対応
Ⅲ 保険への加入

	評価項目	学校自己評価	委員評価
		4・・・適切　3・・・ほぼ適切　2・・・やや不適切　1・・・不適切	
1	施設･設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
3	防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題
①施設･設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか
③防災に対する体制は整備されているか

今後の改善方策
①2021年度は地下の空きテナントの活用として、無人ショップを整備した。学生が制作した衣料やリペア家具、雑貨を販売するなど学習意欲の向上につながる施設改修を実施した。1F風除室については、実習の一環でインテリアショップへと改修した。また、授業設備として、75インチ大型液晶モニターを導入した。これまでプロジェクター中心だった環境から視認性が向上した。
③防災面の整備として3Fフロアの界壁工事を実施した。長期計画で施設の整備を実施していく。

委員特記事項

地下ショップで学生が制作したものを販売できることは満足度向上に繋がると思う。

運営は大変だと思うが、色々な実験も行ってほしい。（岡田委員）

大型モニターの導入は映像の授業もあるので見やすくて良いと思う。（竹越委員）

施設設備の改善、防災に関しても整備を進めている。（髙松委員）

防災面の整備も長期計画的に整備を実施していくことは評価できる。（棚井委員）

防災も天気や地震など察知できないこともあると思うので十分に整備してほしい。（関根委員）

評価基準７　学生の受け入れ募集

Ⅰ 募集の動き
Ⅱ 広報媒体
Ⅲ 募集体制
Ⅳ 学費

	評価項目	学校自己評価	委員評価
		4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切	
1	学生募集活動は適正に行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	体験入学会のメニューは本校の内容と合っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	高等学校への直接訪問を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題
①学生募集活動は適正に行われているか

今後の改善方策
①2021年度の募集活動において2022年度は多くの入学生を迎えることができた。コロナ禍で引き続き地元志向が高まっていることやデザイン分野がリモートワークにも対応した職業であることなどの社会環境的な要因や募集活動の質の向上など様々な要因が考えられるが、成功事例を次年度の募集にもつなげていきたい。

委員特記事項

誇張せず本来の姿をダイレクトに伝える広報を目指している姿勢は評価できる。（棚井委員）

評価基準８　財務

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切	
1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	財務について会計監査が適切に行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	財務情報公開の体制整備は出来ているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題
①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか

今後の改善方策
①2021年度生に多くの学生を迎え入れたことで中長期的な安定を目指していきたい。そのためには、退学率の低減や引き続き入学生の確保が必要になる。そして、社会人を対象とする学科を設立し今後も続く少子化に向けてリカレント教育をスタートしており、学生募集の面でも安定した運営につながると考えられる。また、日常の経費についても引き続き削減努力を行っていきたい。

委員特記事項

リカレント教育は有意義である。これまで以上に周知すると良い。（近藤委員）

地域に根付いた信頼できる学校として、これからも発展するために入学生の確保に向けて努力している。（棚井委員）

評価基準９　法令等の遵守

Ⅰ 個人情報の保護

Ⅱ 学校自己点検・自己評価

Ⅲ 学生作品と著作権の問題

	評価項目	学校自己評価	委員評価
		4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切	
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	自己評価の結果を公開しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	著作権について学生は理解しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1

課題
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

今後の改善方策
①デザインの仕事においては扱う情報が企業秘密であったり、公開前の情報であることもしばしばあるため、学生は情報管理の大切さを理解することが必要である。特に著作権や個人情報については学んでおく必要がある。また、不特多数の学生の情報を扱う教務も気をつけなければならない。また、インターネット上での情報の取り扱いも十分に理解して就職する必要がある。

委員特記事項

弁護士や弁理士による授業があってもよいのではないか。（近藤委員）

インターネット購入画像の無断使用などがニュースになることがあった。悪意がなくても事故事件に

巻き込まれることがあるので、企業も学生も勉強が必要だと強く感じる。（岡田委員）

情報が錯綜している世の中なので著作権は難しい。勉強は必要。（髙松委員）

学生には難しいかもしれないが、著作権については十分に教えてほしい。（関根委員）

評価基準１０　社会貢献・地域貢献

Ⅰ 企業･団体等連携の成果

Ⅱ 企業･団体等連携の一覧

	評価項目	学校自己評価	委員評価
		4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切	
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	学生の自由参加による社会貢献度の高い地域連携ボランティアを奨励、支援しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
3	取り上げる「テーマ」は教育効果や地域への貢献度等の基本的要件を満たしているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	企業・団体等連携授業において、良い評価をいただいているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか

今後の改善方策
①修了制作の一環として地域のイベントに多くの学生が参加した。修了制作の一環としてアンケート調査を行う目的だったが、色々なイベントで行うワークショップはデザインを学ぶ学生だからこそ人を楽しませることができていると感じる。社会貢献の意味でも学習のプログラムを踏まえこのようなイベントに参加して学内では体験できない機会も大切にしたい。

委員特記事項

さらに自治体や業界団体等との連携を強化してほしい。（近藤委員）

学校の外から評価を受ける事は学生のモチベーションにも繋がり思わぬ発見もある。地域のコンペや

イベントの参加は学びが多いので、これからも沢山参加してほしい。（竹越委員）

修了制作として地域と連携しての制作発表はとても良い取り組みなので続けてほしい。（棚井委員）

社会貢献、地域貢献が出来ていると思うので、今後も継続してほしい。（関根委員）

県や市町村からの依頼が多くなり、この実績が学生受入れの際に保護者へのアピールになると思う。（阿久津委員）